

アマチュア無線 パソコン・ソフトSSTV用  
マイク切換器 MS-10R2

取扱説明書



目次

概要 1

1. 機能と名称 1

1-1. 前面パネル 1

1-1-1. MICの接続 1

1-1-2. マイクの電源供給 2

1-2. 背面パネル 3

1-2-1. MIC OUT 3

1-2-2. SP IN 4

1-2-3. OUT 4

1-2-4. IN 4

2. 設定・調整 4

2-1. 電源供給の設定 4

2-2. SSTV信号の送信 5

2-3. SSTV信号の受信音量調整 5

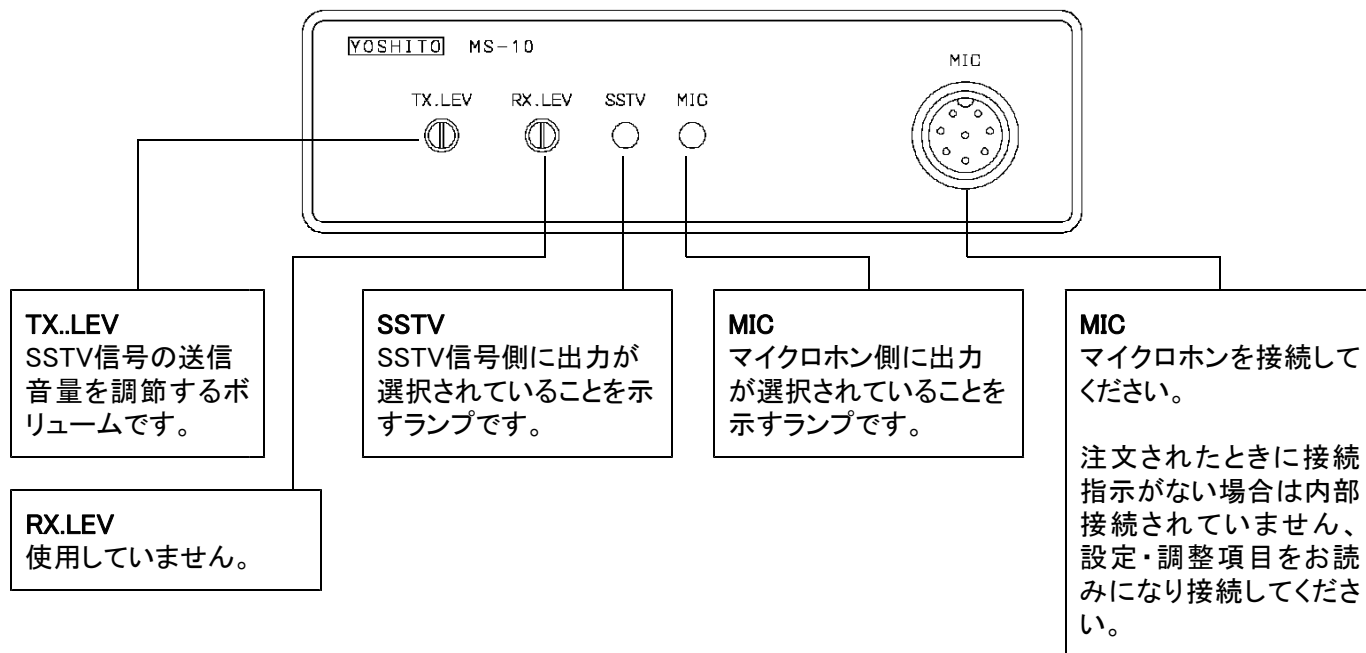
## 概要。

本製品は2000年に配布いたしましたMS-10を一部変更改修し、スマートフォンでも運用できるようにしました。スマートフォンでの運用を可能にするためVOX回路を追加したために、パーソナルコンピュータでの運用にRS-232Cの必要がなくなり、スマホ・PCどちらでも使用できます。

★ スマートフォンにより音声出力が小さく運用出来ない機種もあります。

## 1. 機能と名称

### 1-1. 前面パネル



#### 1-1-1. MICの接続

マイクロホン端子の接続配列は各無線機メーカー、同一メーカーでも機種により異なる場合が多く、本機では注文いただくときに指定していただきますが、機種が決まっていない場合は、使用するマイクロホンに合わせ、ご自分でマイク端子から出ているコンタクトピン付きリード線をコネクター・ハウジングに差し込んでいただき接続を行います。

上蓋を外します。

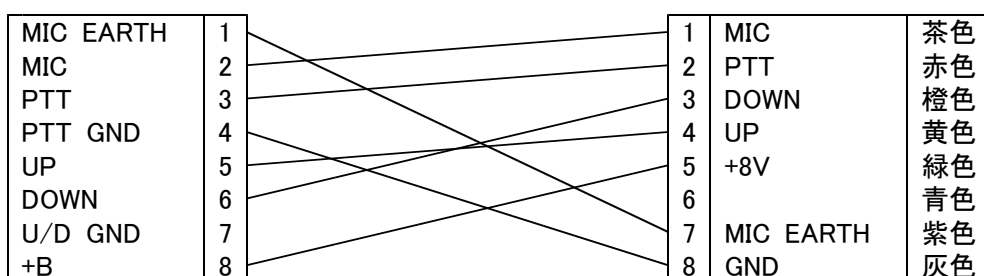
#### <接続方法>

- コネクター・ハウジングを取り外します。  
プリント基板上のCN1(白色コネクター)に仮取り付けしてあるハウジングを引き抜きます。  
尚、ハウジングの向きを覚えておいてください、ピン番号はプリント基板上に1 - 8で印刷されています。
- コネクターの配線をします。  
マイク端子から出ているリード線を下記表の配列通り、使用するマイクロホンに合わせ、コネクター・ハウジングに差し込みます。  
必要のないリード線は回路のショートを防ぐために、必ずマイク端子に近い所で切断するか、リード端末のコンタクトピンをビニールテープ等で絶縁してください。

[ 例1 ]

MS-10R2CN1)

MIC (KENWOOD TS-690用)

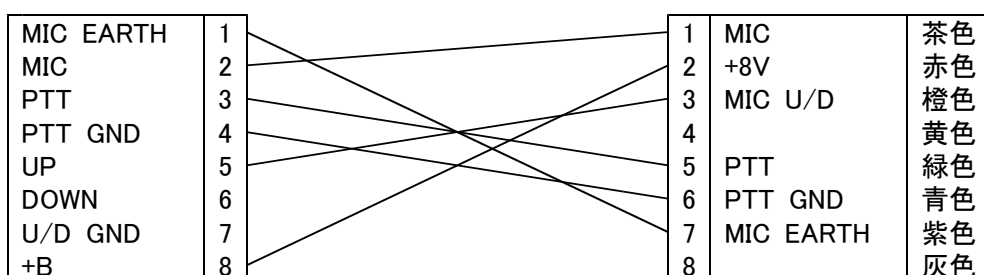


5PIN不要の場合あり。

[ 例2 ]

MS-10R2(CN1)

MIC (ICOM IC-780用)



2PIN不要の場合あり。

ハウジングとコンタクトピンの向きは、ハウジング横の小さな窓に、コンタクトピンの抜け止め爪が引っかかるように差し込みます。

解らない場合は、MIC OUT側コネクタ(CN5)を引き抜き参考にしてください。

3. ハウジングをコネクタ(CN1)に差し込みます。

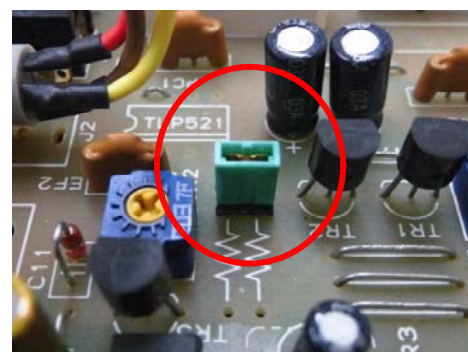
●マイクロホンの種類により使用できないものもあります。

### 1-1-2. コンデンサーマイクの電源供給

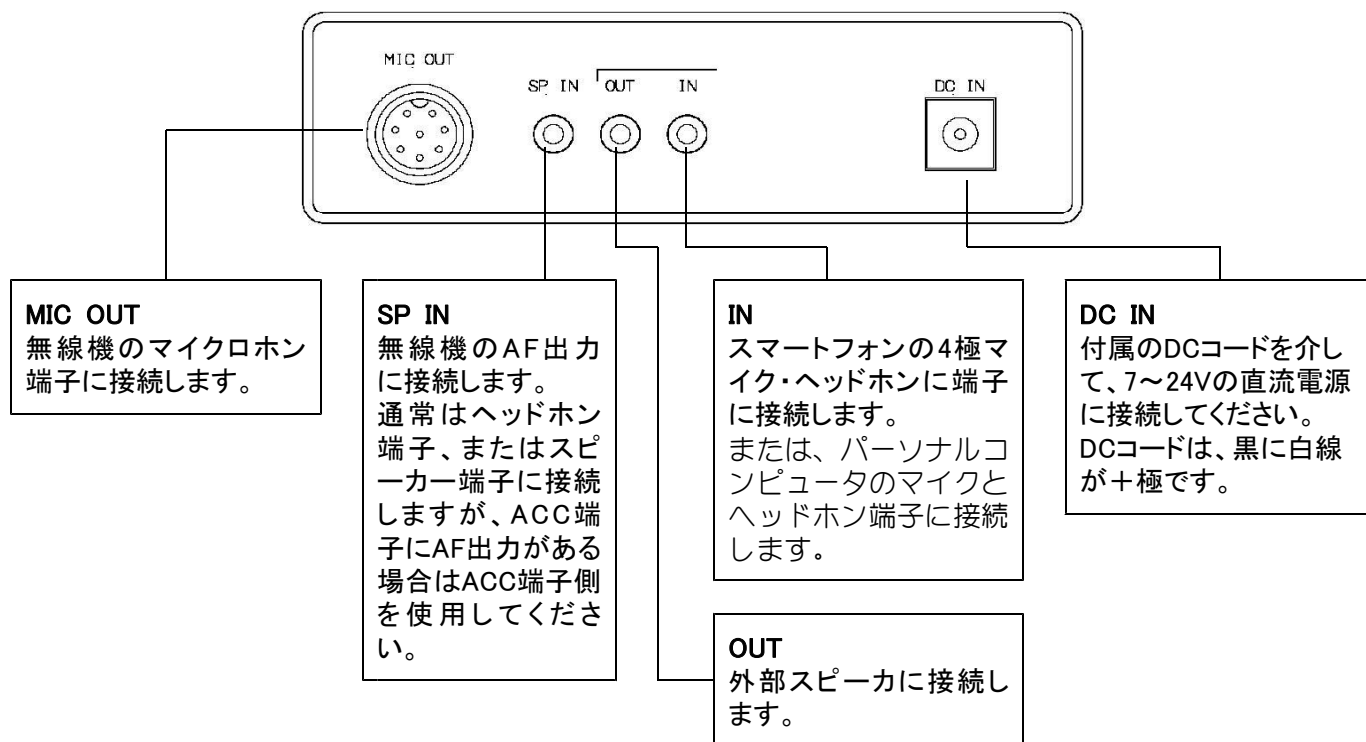
コンデンサーマイクロホンを使用している場合は、マイクロホンに電源供給が必要になります。

R13とR14の箇所にはジャンパーポストがあります、初期はオープンになっていますがジャンパーしますと、電圧値5V電流値5mAを供給します。

マイクロホンの仕様を確認し、必要に合わせ電源供給してください。



## 1-2. 背面パネル



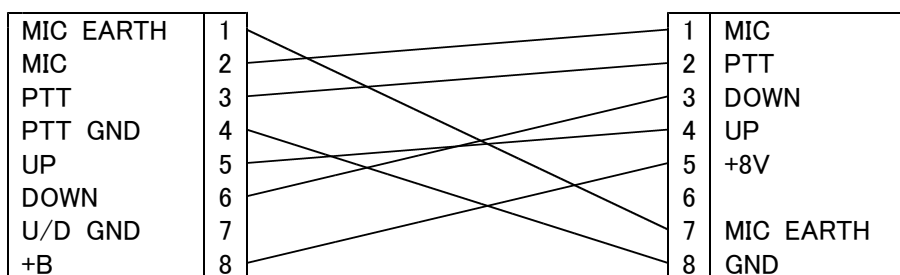
### 1-2-1. MIC OUT

本機と無線機をつなぐ中継ケーブルを接続します。  
中継ケーブルは使用する無線機に合わせ製作してください

[ 例1 ]

MS-10R2(MIC OUT)

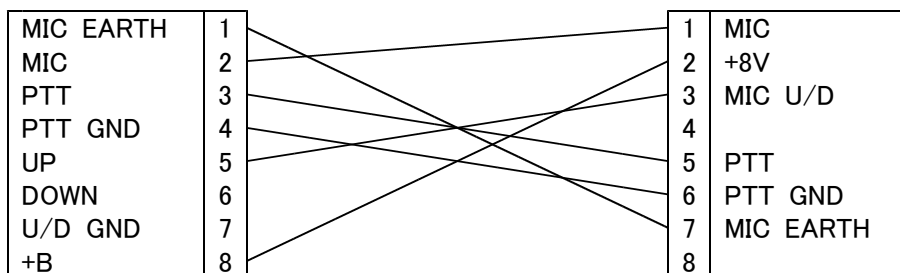
KENWOOD(TS-690)



[ 例2 ]

MS-10R2(MIC OUT)

ICOM(IC-780)



## 1-2-2. SP IN

本機と無線機のヘッドホン端子等と接続するケーブルは、本機側は3.5φモノラル・ミニプラグで、無線機側は使用する無線機に合わせてください。

## 1-2-3. OUT

外部スピーカに接続します。無線機のヘッドホン端子と本機の「SP IN」を接続すると、無線機のスピーカから音声が出力されなくなりますので外部スピーカを使用してください、本機側は3.5φモノラル・ミニプラグです。

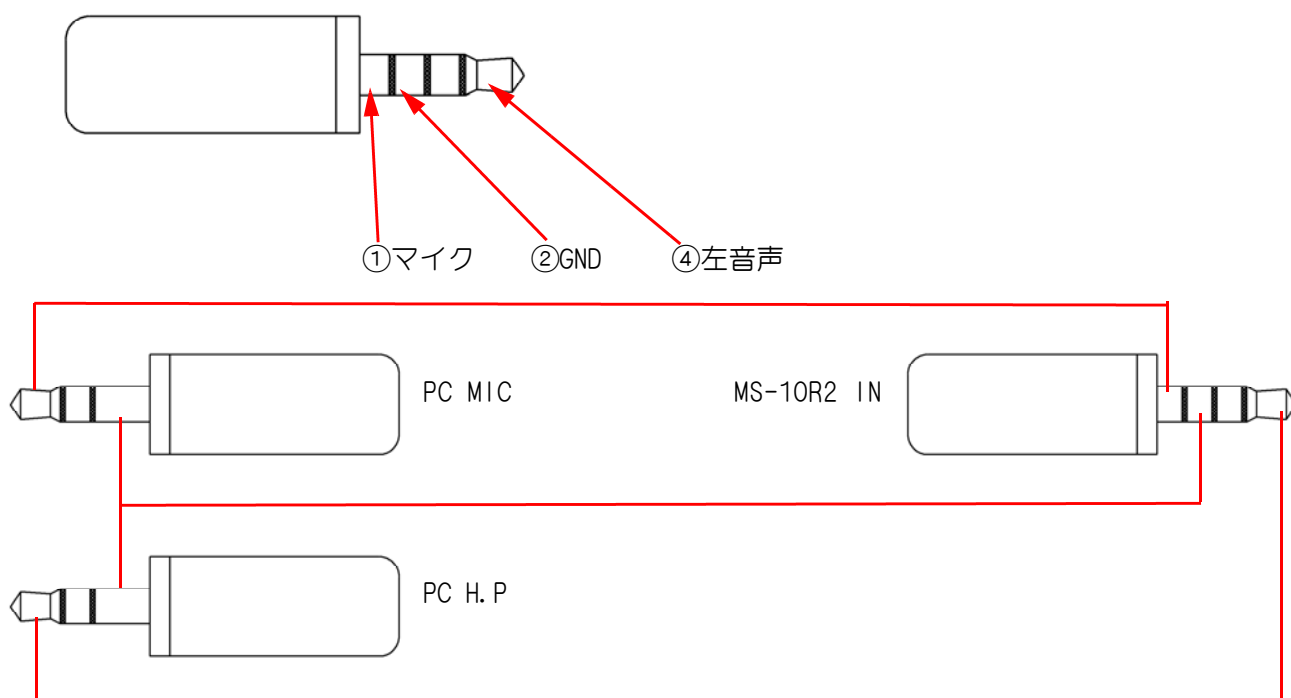
## 1-2-4. IN

Androidスマートフォンまたはタブレットを接続する場合は、市販品のCTIA規格3.5φ両端4極ステレオ・ミニプラグが使用できます。

iPhoneを使用する場合は、iPhoneの説明書と接続図を参考にしてください。

パーソナルコンピュータを接続する場合は、ヘッドホン端子及びマイク端子をつなぎます。接続図を参考に製作してください。

本機「IN」ジャック仕様



## 2. 設定・調整

### 2-1. 電源供給の設定

本機は7～24Vの直流電源で動作します、無線機のマイクロホン端子に8～9Vの電源が供給されている機種があり、本機の電源としてマイクロホン端子から供給し使用できます。

本機は最大で約10mA以下を消費します、電源を必要とするマイクロホン等を使用する場合は、無線機の供給できる電流値を確認して使用してください。

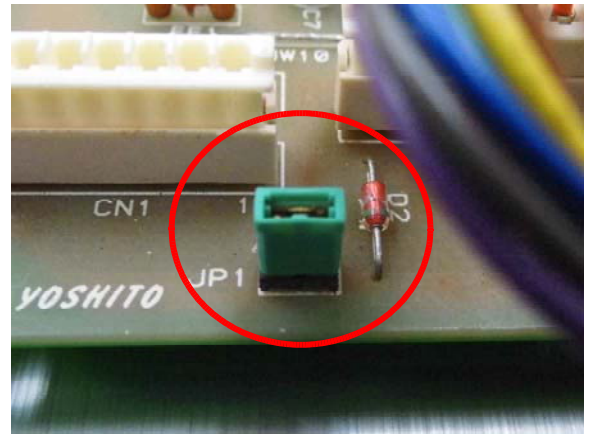
使用できない場合は背面パネルのDC IN端子に、付属のDC電源コードを使用して電源を供給してください。

<設定方法>

1. 上蓋を外します。  
両脇にある上蓋取付用の黒いネジ(4個)を外します。
2. プリント基板上のJP1(右端の中央)をジャンパーします。

初期設定はマイクロホン端子からの電源供給オフです。  
JP1をジャンパーしてもDC IN端子は使用できます。

JP1 オープン	マイクロホン端子からの電源供給オフ
JP1 ジャンパー	マイクロホン端子からの電源供給オン



## 2-2. SSTV信号の送信音量調整(VOXレベル調整)

スマートフォンまたはパーソナル・コンピュータの音声出力を最小にし、SSTV信号を送信した時に無線機のPTTが動作し、送信出来るまで音声出力を大きくします、極端に出力を上げますと本機および無線機の故障につながります。

## 2-3. SSTV信号の受信音量調整

SSTVソフトウェアの受信画面で、受信信号のレベルが適正になるよう無線機のAFボリュームを調整してください。